



さらなる地域防災力の向上を目指して

高野英男さん(66歳・本丸)

「自分たちのまちは自分たちで守る」という使命感のもと、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っている行田市消防団。今年4月、高野英男さんは総勢264人の団員を指揮する消防団長に就任し、新たなスタートを切りました。

高野さんが消防団に入団したのは19歳のときでした。当時、自宅のすぐ裏にあった小学校で火災が発生したときに、消防団員が必死になって消火活動を行っている姿を目の当たりにしたのです。「自分も地域の役に立ちたい」。そんな思いから入団を決意し、地元の中隊第三分団の一員として新たな一歩を踏み出しました。

「火災が発生すれば、昼夜を問わず毎回出動してました。火を消すのとにかく必死でし



たよ」と入団当初を振り返る高野さん。現場では火の粉が落ちてきたり、煙で息ができなかったりと自分の身に危険が迫ったこともあったそうです。壮絶な現場を何度も経験するうちに「どんな状況でも、冷静に対応できるようにならなければ。そのためには、自分の消防技術を磨く必要がある」と意識するようになった。日ごろの訓練にも熱が入り、日々進化する消防車両の資材や器具の操作方法を体得していくことで、一人前の消防団員へと成長していったのです。そして、入団して36年がたった平成16年には、中央第三分団の分団長に。「先輩の意思を引き継ぎながら、団員同士が固い絆でつながる分団にしたい」という思いから、懸命に後進の指導や雰囲気づくりを注いでいきました。

今年の4月に消防団長に就任し、ますます地域の防災力向上に意気込みを見せる高野さん。現在は、地震や風水害といった大規模な災害にも対処できる組織づくりを力を入れているそうです。「今後は首都直下型大地震や南海トラフ巨大地震を想定しなければいけません。私たち消防団員は、大規模災害に対してどう立ち向かっていくか、真剣に考えていくべきです。少しずつ、でも確実に地域の課題を解決していきたい」と言葉に熱を込めます。災害に強いまちづくりの中核的存在である消防団。そのトップとして、高野さんの熱き消防団魂はまだまだ冷める様子はありません。

はじめまして



平成26年7月生まれのお子さんを募集します

○5月1日(金)～29日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、6月4日(休)午後2時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成26年5月生まれのおともだち ★★★



長谷川 龍馬 ちゃん・翔馬 ちゃん (長野)
平成26年5月30日生まれ
父・和之さん 母・優子さん
「この青空に昇れ龍馬、翔べ翔馬！」



大村 真南斗 ちゃん (新潟)
平成26年5月7日生まれ
父・真彦さん 母・あかねさん
「たくましく元気に育ってね♡」



北川 愛紗 ちゃん (谷根)
平成26年5月9日生まれ
父・健一郎さん 母・麻美さん
「みんなの愛をこめて♡
大きくなっってね♡」



坂田 寛明 ちゃん (佐間)
平成26年5月13日生まれ
父・和憲さん 母・典子さん
「我が家の若大将♡」



高田 昊 ちゃん (新潟)
平成26年5月8日生まれ
父・亮さん 母・智恵さん
「元気にスクスク育ってね！」



阿部 紗来 ちゃん (長野)
平成26年5月28日生まれ
父・大輝さん 母・亜由美さん
「いつも笑顔をありがとう！」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社アロマグレース

アロマの香りで快適な空間をつくる



会社プロフィール

代表取締役 井上 季俊
【事業内容】アロマテラピー関連商品の販売、スクール運営
【住所】忍2-2-15

平成21年12月に設立した株式会社アロマグレース。同社は、アロマオイルやハーブティーを販売する他、アロマテラピーとハーブのプロフェッショナルを養成するための教室も運営するなど、香りを通して人々の生活に潤いを与えています。

アロマの香りは人々に癒やしを与え、気分をリフレッシュさせる効果があるといわれています。そのため、医療分野でも「メディカルアロマテラピー」として活用されており、同社もいち早く注目しました。代表取締役の井上季俊さんは「アロマテラピーは、実際に海外で医療として取り入れられています。最近では、認知症の予防・改善にも有効であることが実証されているんですよ」と語ります。香りだけでなく、感染症予防・抗菌作用・精神安定作用などの効果があることから、自然療法の一つとして多くの医療現場で取り入れられてきたり、普及に努めているそうです。

その足掛かりとして、医療機関を中心に提供しているサービスがあります。それが「香りのお届けサービス」です。同社では、季節や目的に合わせて

アロマグレースは定期的な届け、アロマポットやアロマディフューザーといった香りを楽しむための機器のメンテナンスも行っています。このサービスを導入した施設は、たちまち癒しの空間に。医療関係者からは「患者の緊張を和らげることができ、とても助かっています」と高い評価を受けているそうです。

また、同社はアロマテラピーを多くの方に身近に感じてもらうべく、商工会議所主催の「まちゼミ」に毎回参加しています。「アロマには体温を下げる効果があることなど、さまざまなメリットについて受講生に伝えていきます。アロマに対する知識が広がり、行政の理解が得られれば小・中学校や市役所などの公共施設で香りを楽しむことができるようになるかもしれませんね」と井上さんはこころほほ笑みます。行田市のことを「人々が快適に過ごせるようなまちになってほしい」と願う同社。そのための一つのツールとして、アロマセラピーが脚光を浴びるときがやってくるかもしれません。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へご応募ください。

俳句

- 荒木 森田 静
幸せはこんな匂ひか草の餅
- 富士見町 鈴木スイ子
両の手を広げ落花を待つ子かな
- 佐間 須永 節子
八十路過ぐ健康談義山笑ふ
- 持田 丸山 麟一
一村が香りに満ちる梅の里
- 荒木 藤田 栄之
飲み食ひも書くも定位置春炬燵
- 藤間 大上美知子
身を添わせ古墳の桜咲きつらなり
- 城西 鈴木 正夫
業平を気取って一首花の宴
- 下中条 梶原 銃司
暁の闇の咆哮春一番
- 須加 蓮 陽子
菜の花や利根の堤に色そえて
- 清水町 斉藤 文子
花冷えに一人ぼっちのティータイム
- 荒木 高澤よね子
胸に生く姉の思い出露の臺
- 城南 町田 達男
せつかは先に行かせて青き踏む
- 谷郷 大谷 峯生
花を詠む句ごころに未だ遠かりし
- 持田 伊藤 洋子
老いてなほ父母偲ぶ彼岸かな
- 棚田町 財津ミチエ
啓蟄や曾孫手に置く幼虫
- 富士見町 森 節子
戯れに白瓜草でレイ作り
- 門井町 茂田 鳥山
花咲くや五右衛門顔の熱き風呂
- 須加 天沼 広吉
腰立てる麦の緑も淡くなり
- 棚田町 春田 枕流
やま桜はらはらとなほはらはらと
- 持田 小倉 繁三
春めくや固き畑で鎌を振る
- (三沢 一水 監修)

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。